

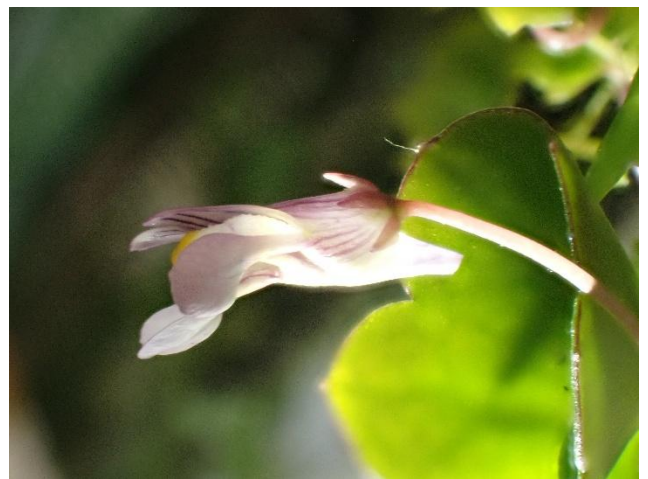
外来種情報

2026. 07. 02.

ツタバウンラン

(蔦葉海蘭) オオバコ科ツタバウンラン属

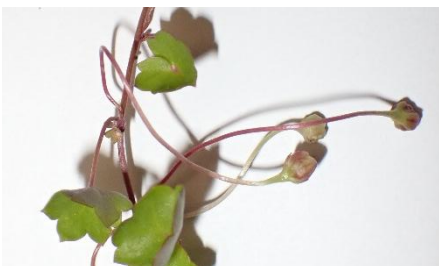
Cymbalaria muralis



ヨーロッパ原産。日本へは大正初年に園芸植物として渡来。ロックガーデンなどに植えられたりしたが、やがて逸出し野生化している。道端や石垣の隙間などに生えているのを見ることが多い。種小名の '*muralis*' は「城壁」の意であり、正に石垣の間に生えるこの植物の生態的特徴からつけられたものと考えられる。

植物体全体に無毛。匍匐性で、茎は細長く這い、その長さは 10-40 cm ほどになる。くきは、あかみがあり、葉は浅く 5-7 裂する掌状。

花は、唇形で、ごく薄く赤みがかった白色から淡青紫色で、長さは 7-9 mm で距がある。雄しべは 4 個。果実は直径 5-6 mm のきゅうけいで、長い柄の先につく。熟すと裂け直径 1 mm 歩度の種子を散布する。



画像は諏訪市産の個体
塩尻市においては、すでに
片丘内田で繁殖している、
との情報あり。

塩尻市内で見られる外来種のウンラン

〔園芸店では *Linaria*、*Nuttallanthus* とも〕



キバナウンラン
Linaria dalmatica



ホソバウンラン
Linaria vulgaris



ムラサキウンラン
Linaria purpurea



マツバウンラン
Nuttallanthus canadensis

この仲間は、ヨーロッパおよび北アメリカ原産。

日本には北海道と本州の海岸で見られるウンラン (*Linaria japonica*) があるが、自生地は減少している。同じ科には、園芸種のキンギョソウがあり、花も似ている。

私が最初に見たのは、30 年程前の事、修学旅行で引率した先の京都高台寺付近の土手に生えていたマツバウンランであった。それから十数年後に小坂田公園の自然博物館裏の芝生の中に数株咲いているのを確認したのが 2 度目で、塩尻市内で初めてのことになる。同時期に片丘の長野県教育センター駐車場でキバナウンランを、さらに岡谷インター西交差点付近の路傍にホソバウンランが咲き誇っているのを確認した。最近では市役所周辺や塩尻東地区センター周辺などで広範囲に広がっている。

これらは、寒さにも強く、花も美しいため駆除されることが少なく、路傍のものを含め増える傾向にあるように思う。園芸店ではリナリアの名（ゴマノハグサ科のウンラン属の属名）で売られていることが多い。